

調査・研修報告書(会派個人用)

会派名： 地域政党きずな庄原議員団

報告者： 林 高正

㊞

実施場所：東京都 第14回 2022年度 日本自治創造学会 研究大会	実施日：令和4年5月19日～20日
<p>■目的・課題・問題事項(調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など)</p> <p>ほぼ毎年受講している日本自治創造学科 研究大会ですが、コロナ禍で2年間はオンライン開催となっていましたので、3年振りのリアル開催です。会場も明治大学から一橋大学一橋講堂へと変更となり、「変化への挑戦!～元気な地方を創り出す～」というテーマの本気度が感じられ、ワクワクして参加させていただきました。</p>	
<p>■参考とすべき事項</p> <p>今回も二日間で多くの講演がありましたが、私は事例発表及びパネルディスカッション～民間人の活躍で地方活性～、が、今の時代にあった活性化策と感じました。海士町の株式会社風と土と代表取締役 阿部裕志氏、株式会社カヤック代表取締役 CEO 柳澤大輔氏、慶應義塾大学メディア研究科特任准教授 若新雄純氏によるパネルディスカッションは、事例発表に基づいたものだったのですが、3名の波長が合ってきた後半は最高でしたね。結果を求めて最初から計画するのではなく、先ず、面白いことをするという発想が大切であること。やるからには徹底的に、途中投げすることなく、決して「諦めない」ことが重要という意見で纏められました。</p> <p>もう一つ気になる講演は、千葉県知事の熊谷俊人さんによる「新しい千葉の時代を切り開く」でしたが、千葉市議会議員、千葉市長とキャリアを積んでこられ千葉県知事に就任すると新たな千葉県の方向性を示されたことに、やる気と本気を感じることができました。千葉県の最大の武器は、農業、漁業、観光、工業と何でも揃っていることですが、更に成田空港が日本のハブ空港として機能していることが肝であることが理解できました。</p>	
<p>■提言・その他(本市の施策等にどのように活用すべきか など)</p> <p>本市への提言というか、採用してみる価値が十分にあると感じたのは、参考とすべき事項にも書かせていただいた、3名がされた事例発表とパネルディスカッションにあります。海士町はこれまでも研究していますので一定程度は理解しているつもりでしたが、海士町は第二期創生期に入っていると感じました。つまり、Iターンした人たちの子供世代が動き始めています。つまり、よそ者でなくなったのです。一体的発展に進化しています。カヤックは、会社の枠を超えて鎌倉というまちをひとつのコミュニティーにしていると感じました。これって、NPOがやっているまちづくりかと錯覚するほど住民を巻き込んでいますが、基本は、楽しむということですが、徹底的がつきます。そして、大ブレーク中の「うんこミュージアム」ですが、残念ながら経験がないのでコメントできません。若新さんがやっているJK(女子高生)青春、1000万円、最初はバカバカしいから始まったのですが、JKが考えた意味不明企画を本気で実行し、知らない内にまちが活性化してきたという、結果を最初から求めないことが成功のカギだったという不思議なお話です。これらの事例は、結果よりも過程を楽しむと言えますが、先ずは、行動に移すことです。動きながら考えるでもなく、どう弾けるか分からないワクワク感ですね。</p>	

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。